

SAMPLE

特集レポート No. 047

物流業界における人材危機への対応

Strictly Confidential

 Info Mart Corporation

2017年 6月28日

はじめに

- 現在、物流業界はEC市場の急成長による取扱荷物量の増加と深刻な人手不足により、モノが運べなくなる寸前の危機的な状況に陥っている
- 物流各社と政府は、人材危機を回避すべく、他業界を巻き込みながら業務プロセスの改革やテクノロジーの開発を積極的に進めている
- 本レポートでは、各社の取組みを紹介する共に、それら施策の類似業界への応用可能性について考察する

本レポートのサマリ

- 一般的に物流事業は輸送と倉庫内作業の2つの機能から成り立つ
- 物流事業の国内環境は構造的な要因で「需要>供給」の状態が継続するものと思われるため、国内物流のKSFは5~10年程度の中期スパンでは変わらないものと思われる
 - 国内陸運におけるKSFは「自社がコントロール可能なトラックドライバー・作業員を確保すること」
- 物流業界におけるゲームのルールを大きく変える要因は、需給バランスを根本的に変化させる政策・テクノロジーであり、中長期的にはこれらの動きも視野に入れて動く必要がある
 - 物流ロボット、自動運転、IoTなどの技術研究は各社が進めており、省人化実現に向けて動いている
 - ドライバー不足に対する政府の対応も継続的に行われている
 - 省人化技術の実用化・普及の目安としては2025年以降と言われている
- 建設・介護・飲食業界でも物流業界と類似した構造で人材不足が起こっており、物流業界における対処方法を応用できる可能性がある

本資料の流れ



- I. 物流業界の現状
- II. 人材危機への対応

物流業界を取り巻く環境の動向

業界の大きな潮流

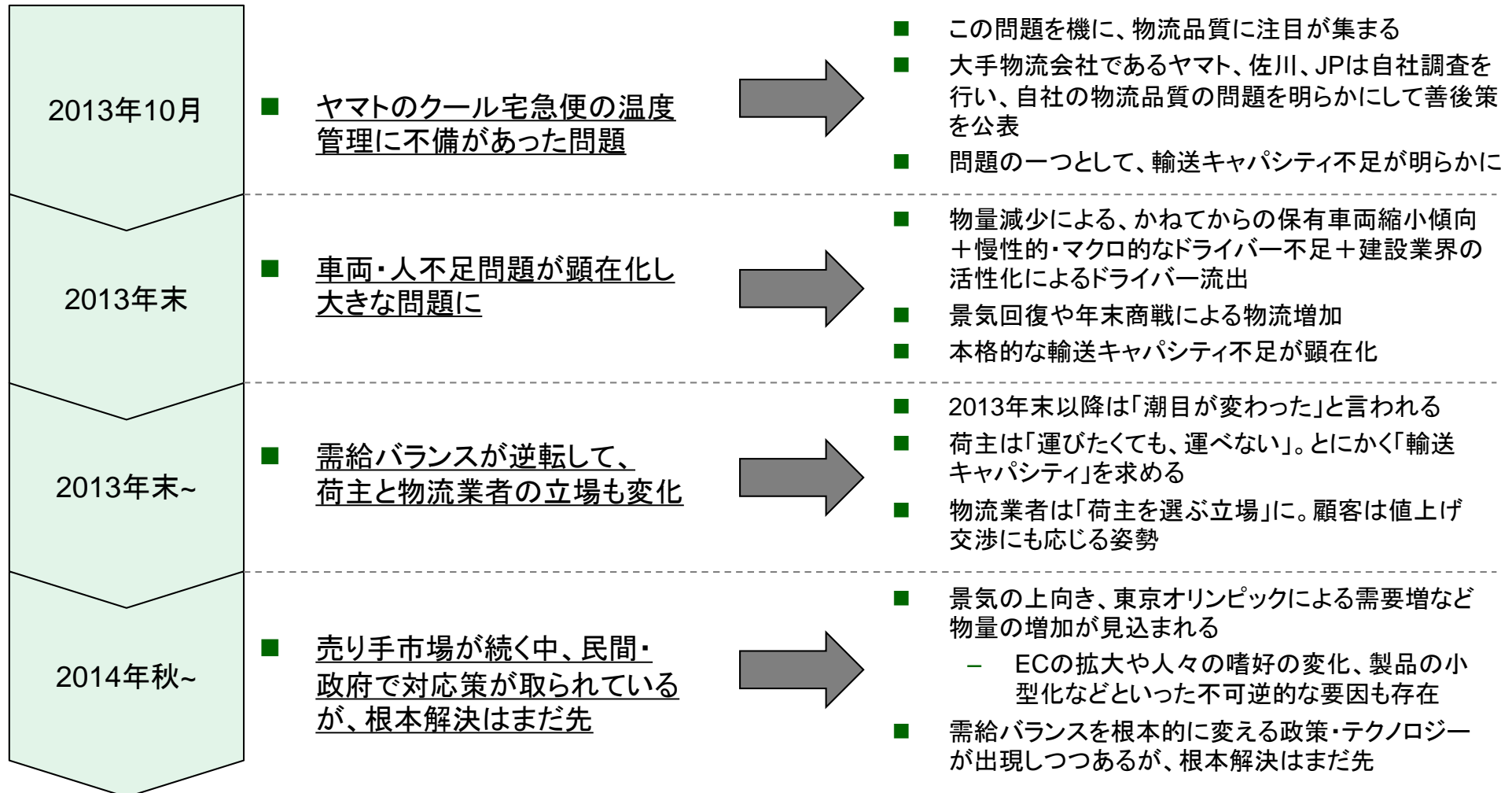
- 需給の逆転により業界KSFの変容
 - 2013年以降、需要が供給を上回る状況が続く(足がある分荷物を運べる状況)
 - KSFは外注マネジメントから自社足回り・人材確保へ
- 【供給】深刻なドライバー・作業員不足
 - トラック免許取得に関する規制
 - 3K環境を原因とする若年者の新規ドライバーの減少
 - そもそもの労働人口減少
- 【需要】経済・技術発展に伴う多品種・多頻度小口物流の需要増
 - インターネットの発展によるBtoCネット通販による物流件数の増加
 - 各種製品の小型化の進行
 - モノの飽和による消費者の嗜好の多様化
- 【競争】多数の中小プレイヤーの競争
 - 多重下請け構造が起こる

近年の事象・トレンド

政治 (Political)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 需要の分散・供給の効率化:改正物流総合効率化法案の制定 <ul style="list-style-type: none"> - モーダルシフト、共同配送の後押しによる労働力不足の解消を目的 ■ 免許制度の緩和:準中型免許制度の新設(2017年3月～) <ul style="list-style-type: none"> - 18歳未満でも普通免許取得後すぐに、3.5～7.5tトラックの運転ができる免許を取得可能
経済 (Economy)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 足回りを求めた物流企業の統廃合、大手企業への集約 ■ 顧客接点を持つ異業種の物流事業への参入 ■ 各物流企業の物流以外のサービスへの進出 ■ 運賃の高騰
社会 (Social)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配送の利便性の低下 <ul style="list-style-type: none"> - 運賃の高騰や、在庫確保時間の変化など ■ 新しいドライバーの誕生:女性ドライバーなど新たな運びの担い手の増加
技術 (Technology)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ITによる効率化:IoTを活用した最適な物流計画の構築 ■ ITによる省人化:自動運転技術の開発と自動運転車の普及に向けた動き ■ 需給の最適化:物流版Uberのようなインターネットを用いた荷主と物流業者(大企業・中小企業・個人まで)のマッチング

直近数年での物流業界環境の大きな変化

- 2013年頃に始まった構造的な変化に伴い、物流業界のKSFは変質
- このトレンドは中長期的に継続の見込み



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

